第80回東京箱根間往復大学駅伝競走　慰労会報告

1月3日(土)箱根駅伝終了後の18時30分より「銀座東武ホテル」において、陸上競技部とその父母、OB、本学関係者など約200名が出席して盛大な慰労会が開催されました。阿部部長の総評、川崎監督による選手紹介の後、応援部チアリーディングクラブおよび吹奏楽団より選手へ健闘を称えてエールが送られました。さらには、阿部部長・川崎監督・奥村主将と応援部チアリーディングクラブと吹奏楽団の代表者へ花束の贈呈も行われ、会場からは大きな拍手が送られました。

陸上競技部は今年の箱根駅伝終了と同時に来年へ向けて新たにスタートを切りました。ご声援いただきましたOB　、在学生、関係者の皆様、今後ともご支援くださいますようお願いいたします。

中央学院大学陸上競技部　選手リスト

	選手名	学部	出身地	出身高校
	4年			
主将	奥村　雄大	商学部	大分県	竹田商業高等学校
副将	河南　耕二	商学部	兵庫県	神崎高等学校
寮長	渡邉　祐介	法学部	千葉県	中央学院高等学校
	大西　亮輔	商学部	兵庫県	西脇工業高等学校
	小高　優	法学部	栃木県	那須拓陽高等学校
	齊藤　伴和	商学部	群馬県	東農大二高等学校
	石渕　浩次	商学部	新潟県	羽茂高等学校
主務	堀　立身	商学部	富山県	高岡向陵高等学校
	3年			
	中東　亨介	商学部	大阪府	大阪学院高等学校
	石田　直之	商学部	千葉県	東金商業高等学校
	畠山　卓哉	商学部	秋田県	花輪高等学校
	小宮　祐介	商学部	栃木県	作新学院高等学校
	加藤　貴之	商学部	群馬県	前橋育英高等学校

選手名	学部	出身地	出身高校
2年			
杉本　芳規	商学部	兵庫県	兵庫工業高等学校
蔭山　浩司	商学部	兵庫県	神港学園高等学校
信田　雄一	商学部	千葉県	拓大紅陵高等学校
梅田　将一	商学部	栃木県	那須拓陽高等学校
江藤　裕也	商学部	兵庫県	報徳学園高等学校
千葉　敬弘	商学部	栃木県	那須拓陽高等学校
1年			
天野　達也	商学部	兵庫県	報徳学園高等学校
池田　智計	商学部	兵庫県	須磨友が丘高等学校
井上　正之	商学部	愛媛県	八幡浜高等学校
大堅　隆紀	商学部	埼玉県	飯能高等学校
大平　剛士	商学部	大分県	大分商業高等学校
各和　芳幸	商学部	栃木県	作新学院高等学校
高山　拓郎	商学部	大分県	竹田高等学校
田中　康二	商学部	広島県	如水館高等学校
中村　充	商学部	大分県	鶴崎工業高等学校
畠山　善孝	商学部	宮城県	仙台育英高等学校
星野　雄介	法学部	神奈川県	市立横須賀高等学校

中央学院大学記録

種目	記録	選手名
800m	1’51”67	藤原　孝行
1500m	3’51”89	青木　栄
5000m	13’56”98	川村　希全
10000m	28’31”14	福山　良祐
3000mSC	8’45”08	町田　次雄
20km	59’54”	福山　良祐
ハーフマラソン	1：02’44”	河南　耕二
マラソン	2：17’19”	平野　進

指導スタッフ

部長	阿部　悟郎	中央学院大学 商学部助教授
監督	川崎　勇二	中央学院大学 法学部助教授
コーチ	尾上　岳史	中央学院大学 駅伝部コーチ
コーチ	青木　栄	JAL AGS
コーチ	町田　次雄	HONDA
顧問	小林　敬和	中央学院大学 法学部助教授

中央学院大学　〒270-1196 千葉県我孫子市久寺家451　TEL：04-7183-6501(代)
http://www.cgu.ac.jp/

Design & Photographs: SHU ITO (D-ROOM) / Photographer: HIROMICHI NOZAWA, TERUAKI TAKAHASHI (CHUOGAKUIN UNIVERSITY) / Editor: AYAKO NAMBA / Coordinator: MIE TSUKAMOTO (TOKYO HEIHAN Co., Ltd.)
Printing: TOKYO HEIHAN Co., Ltd.

CHUOGAKUIN UNIVERSITY

2003
|
2004

EKIDEN TEAM

学生三大駅伝出場　ご声援ありがとうございました

中央学院大学陸上競技部

富津合宿 / 千葉・富津公園

たくさんの方々のご支援により
出雲駅伝、全日本駅伝、箱根駅伝と
学生三大駅伝を戦い抜くことができました。
皆さまからの温かいご声援
誠にありがとうございました。

学長

大久保　皓生

日頃より本学並びに、陸上競技部の活動に関しましてご支援、ご協力を賜りまして心より感謝申し上げます。お陰様で出雲駅伝、全日本駅伝、箱根駅伝という学生の三大駅伝を無事に終えることができました。

箱根駅伝では惜しくもシード権獲得は逃しましたが、選手諸君の今日までの努力を十分に発揮し、満足のいく戦いだったと思います。これも人間の歩みの中の一つの試練です。この結果を一つの励みとして、選手諸君の将来に大いなる精進を期待します。

ご父母、卒業生、大学関係者、地元住民の皆様の温かいご支援に心からお礼申しあげますと共に、本学陸上競技部に対しさらなる関心を寄せてくださることを念願いたします。

陸上競技部　部長

阿部　悟郎

前回の箱根駅伝では、いわゆる挑戦者として戦い、挑戦者の強みをいかし、首尾よくシード権を獲得することができました。ところが、このシード権は同時に後の代へ、知らず知らずのうちに大きなプレッシャーとしてのしかかってきました。「シード権を失ってはいけない」、その精神的なプレッシャーの中で選手たちは一年間ずっと頑張ってきました。今回の箱根駅伝においては、残念なことに、目標でありましたシード権獲得には、わずかながら及びませんでした。しかしながら、中央学院大学の駅伝がより高いレベルで戦っていくうえで克服すべき様々な課題が見えたような気がします。「襷を繋ぐことは心を繋ぐことだ」という気持ちを大切にし、またご支援いただいた方のためにも、課題を一つ一つ克服しながら、一歩一歩前進していきたいと思います。

陸上競技部　監督

川崎　勇二

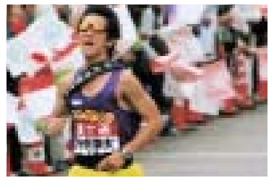
我々はこの1年間、出雲、全日本、そして箱根駅伝と今までに体験したことのない駅伝を経験してまいりました。昨年の箱根駅伝でシード権を獲得してから、さらに上を目指して日々頑張ってまいりました。全日本では初出場ながら6位でシード権を獲得。箱根では11位と残念ながらシード権には力及びませんでしたが、結果は恥じる事はないと思っております。これがチームの力であり、部員全員がやってきた結果です。もう次へのスタートを切っております。意気消沈することなく、来年の箱根ではもっといい結果を残せるよう、選手と共にさらに努力精進していこうと思っております。皆様の温かいご支援ありがとうございました。

2003.10.13

10月13日、島根県大社町の出雲大社から出雲市の出雲ドームまでのコース（6区間、44.0 km）で21チームが出場して開催されました。

駅伝シーズンの幕開けを告げる出雲駅伝は、いわばその年度の各大学の勢力地図を占う大会であります。近年は各校の実力がきわめて接近しており、また短い距離をつなぐスピード駅伝という特徴のせいもあり、予想通りの激戦となりました。

本学は初出場の緊張もあり、1区の蔭山浩司が区間2位という力走を見せましたが、チーム本来の力を出し切れず2時間13分02秒で総合12位という結果となりました。しかし、より多くの選手にチャンスを与え、大舞台での経験を積ませる貴重なレースとなりました。今後はこの経験を生かし、どんなレース展開になっても勝負できる絶対的な強さを身に付けていきたいと思います。



5区走者
石田　直之
商学部3年

襷を受け取った時、周りに誰もいなかったので冷静に自分のペースで走り、予想通りの力が発揮できたと思います。

チームとしては、主力メンバーを欠いた残りのメンバーで、どこまでいけるかということを課題にして頑張りました。もう少し上位を狙えると思っていましたが、いまひとつ力が発揮できず物足りない結果に終わってしまい残念でした。

しかし、初出場できたということ、箱根に向けての雰囲気に慣れるという意味では、良い経験が出来ました。

出雲駅伝

第15回出雲全日本大学選抜駅伝競走

初出場　総合12位

中央学院大学 選手成績		
区　間	選　手　名	記録（区間記録順位）
1区（8.0 km）	蔭山　浩司　商学部2年	24'55"（2位）
2区（5.8 km）	杉本　芳規　商学部2年	17'36"（15位）
3区（8.5 km）	江藤　裕也　商学部2年	26'05"（13位）
4区（6.5 km）	奥村　雄大　商学部4年	18'43"（8位）
5区（5.0 km）	石田　直之　商学部3年	14'44"（5位）
6区（10.2 km）	信田　雄一　商学部2年	30'59"（9位）

総合成績		
総合順位	大学名	総合記録
1位	日本大学	2時間10分04秒
2位	大東文化大学	2時間10分07秒
3位	駒澤大学	2時間10分09秒
4位	東海大学	2時間10分21秒
5位	山梨学院大学	2時間10分29秒
6位	順天堂大学	2時間11分02秒
7位	中央大学	2時間11分03秒
8位	東洋大学	2時間12分23秒
9位	日本体育大学	2時間12分29秒
10位	第一工業大学	2時間12分32秒
11位	立命館大学	2時間12分57秒
12位	中央学院大学	2時間13分02秒
13位	徳山大学	2時間13分47秒
14位	京都産業大学	2時間14分07秒
15位	中国四国学連選抜	2時間16分05秒
16位	愛知工業大学	2時間16分25秒
17位	鹿屋体育大学	2時間16分45秒
18位	東北学連選抜	2時間17分17秒
19位	北海道学連選抜	2時間18分12秒
20位	米国アイビーリーグ選抜	2時間21分09秒
21位	北信越学連選抜	2時間23分22秒

※上位3校がシード権獲得

2003.11.2

11月2日、愛知県名古屋市の熱田神宮をスタートし、三重県伊勢市の伊勢神宮までの8区間106.8kmのコースで開催され、全国8地区の学連代表25校が熱戦を繰り広げました。

各校の戦力が拮抗し、めまぐるしくトップが入れ替わり、勝敗が全く分からない大混戦となった今大会。東海大・大東文化大・駒澤大の3校による史上初のアンカー対決となりました。

本学は、序盤出遅れましたが3区の石田直之が4つ順位を上げ、続く4区エース区間で中東亨介が区間3位の快走、以後区間をきっちりと繋ぎアンカー奥村雄大が粘り強い走りで、初出場ながら5時間26分52秒で見事6位入賞を果たし強豪校を抑え、次回のシード権を獲得しました。

練習の感じから、区間3位くらいで走ることを目標にしていました。後半でペースが上がらず、区間6位という走りでしたが、繋ぎの区間で、きっちり次へ繋ぐという役割は果たせたと思います。

サポートしてくれてる人も走ってる人と同じ気持ちで頑張ってくれたのが、とても心強かったです。

個人個人振り返ってみれば、満足のいく走りが出来なかった者もいましたが、駅伝はチームでやるものですから、6位のシード権獲得は、チームが大きな大会の雰囲気に乗ることが出来るようになった証拠だと思います。

5区走者
大西　亮輔
商学部4年

全日本大学駅伝

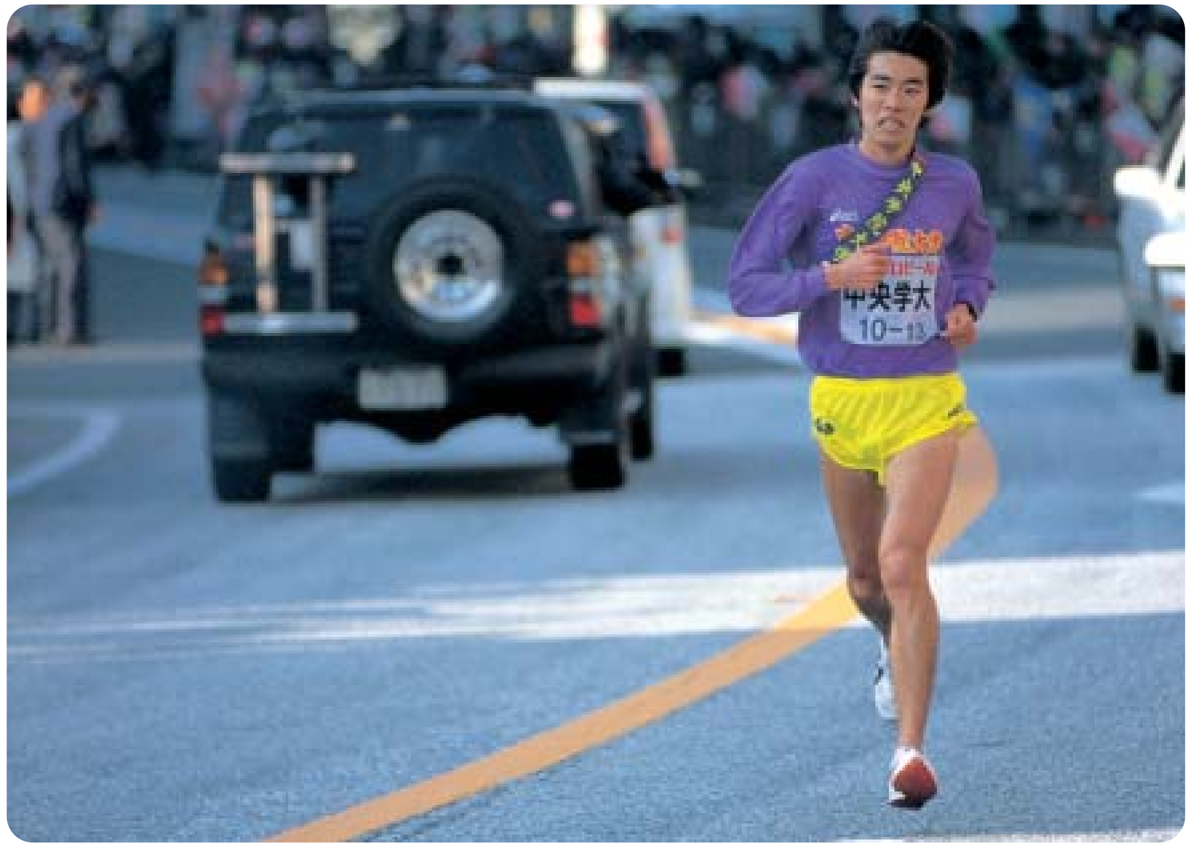
秩父宮賜杯第35回全日本大学駅伝対校選手権大会

初出場　総合6位 シード権獲得

総合成績		
総合順位	大学名	総合記録
1位	東海大学	5時間21分06秒
2位	大東文化大学	5時間22分23秒
3位	山梨学院大学	5時間22分59秒
4位	駒澤大学	5時間23分12秒
5位	日本体育大学	5時間26分25秒
6位	中央学院大学	5時間26分52秒
7位	日本大学	5時間27分25秒
8位	法政大学	5時間27分52秒
9位	東洋大学	5時間28分50秒
10位	京都産業大学	5時間30分56秒
11位	拓殖大学	5時間31分18秒
12位	立命館大学	5時間32分03秒
13位	國學院大学	5時間33分58秒
14位	徳山大学	5時間37分20秒
15位	広島経済大学	5時間39分29秒
16位	第一工業大学	5時間40分02秒
17位	大阪体育大学	5時間41分39秒
18位	東北福祉大学	5時間42分23秒
19位	福岡大学	5時間43分14秒
20位	四日市大学	5時間44分10秒
21位	愛知工業大学	5時間45分15秒
22位	高岡法科大学	5時間49分11秒
23位	北海道教育大学	5時間49分32秒
24位	鹿屋体育大学	5時間50分05秒
25位	早稲田大学	途中棄権

※上位6校がシード権獲得

中央学院大学 選手成績		
区　間	選　手　名	記録（区間記録順位）
1区（14.6 km）	渡邉　祐介　法学部4年	44'58"（16位）
2区（13.2 km）	蔭山　浩司　商学部2年	39'33"（9位）
3区（9.5 km）	石田　直之　商学部3年	28'22"（5位）
4区（14.0 km）	中東　亨介　商学部3年	41'39"（3位）
5区（11.6 km）	大西　亮輔　商学部4年	35'46"（6位）
6区（12.3 km）	江藤　裕也　商学部2年	37'26"（4位）
7区（11.9 km）	杉本　芳規　商学部2年	36'42"（7位）
8区（19.7 km）	奥村　雄大　商学部4年	1:02'26"（7位）



箱根駅伝

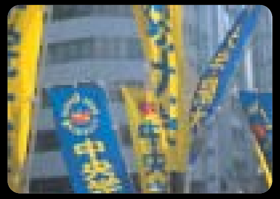
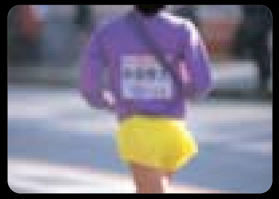
第80回東京箱根間往復大学駅伝競走

2004年1月2日午前8時、号砲とともに大手町の読売新聞社前を20人のランナーがスタートし「第80回東京箱根間往復大学駅伝競走（東京大手町ー箱根芦ノ湖往復、10区間＝216.4km）」の熱戦の火ぶたが切られました。

80回目となった今大会は、参加19校に加え日本学連選抜が出場。前哨戦となった出雲駅伝、全日本駅伝では共に混戦となり、少しのミスが結果に大きく響く、正真正銘の戦国駅伝となりました。

5回目の出場を果たした本学は、多くの強豪校と接戦を演じましたが、残念ながら総合11位（往路8位、復路13位）となり、わずかの差で2年連続のシード権獲得はなりませんでした。しかし、本学の歴史に新たな歴史を刻み、来年の箱根へ向けてスタートしました。

出場5回目　総合11位

CHUGAKUIN
UNIVERSITY
EKIDEN TEAM

第80回大会 総合成績

総合順位	大学名	総合記録
1位	駒澤大学	11時間07分51秒
2位	東海大学	11時間13分48秒
3位	亜細亜大学	11時間16分17秒
4位	法政大学	11時間17分42秒
5位	順天堂大学	11時間17分45秒
6位	東洋大学	11時間18分18秒
7位	中央大学	11時間18分21秒
8位	神奈川大学	11時間18分33秒
9位	日本体育大学	11時間19分18秒
10位	日本大学	11時間21分48秒
11位	中央学院大学	11時間23分58秒
12位	山梨学院大学	11時間25分56秒
13位	大東文化大学	11時間27分25秒
14位	帝京大学	11時間28分21秒
15位	東京農業大学	11時間28分22秒
16位	早稲田大学	11時間28分47秒
17位	国士舘大学	11時間33分34秒
18位	関東学院大学	11時間36分15秒
19位	城西大学	11時間42分15秒
オープン参加	日本学連選抜	11時間17分50秒

※上位10校がシード権獲得

中央学院大学 選手成績

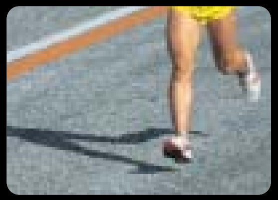
区間	選手名	記録（区間記録順位）
1区（21.3km）	石田　直之　商学部3年	1:05'28"（17位）
2区（23.0km）	中東　亨介　商学部3年	1:10'38"（12位）
3区（21.3km）	江藤　裕也　商学部2年	1:05'57"（9位）
4区（20.9km）	渡邉　祐介　法学部4年	1:05'02"（5位）
5区（20.7km）	信田　雄一　商学部2年	1:14'32"（6位）
6区（20.7km）	齊藤　伴和　商学部4年	1:01'09"（9位）
7区（21.2km）	杉本　芳規　商学部2年	1:06'42"（13位）
8区（21.3km）	河南　耕二　商学部4年	1:08'29"（13位）
9区（23.0km）	蔭山　浩司　商学部2年	1:14'33"（19位）
10区（23.0km）	奥村　雄大　商学部4年	1:11'28"（4位）

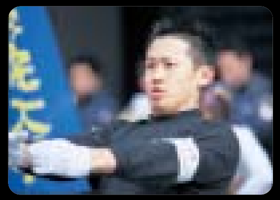
第70回大会（平成6年1月2.3日）
総合16位　11時間38分35秒

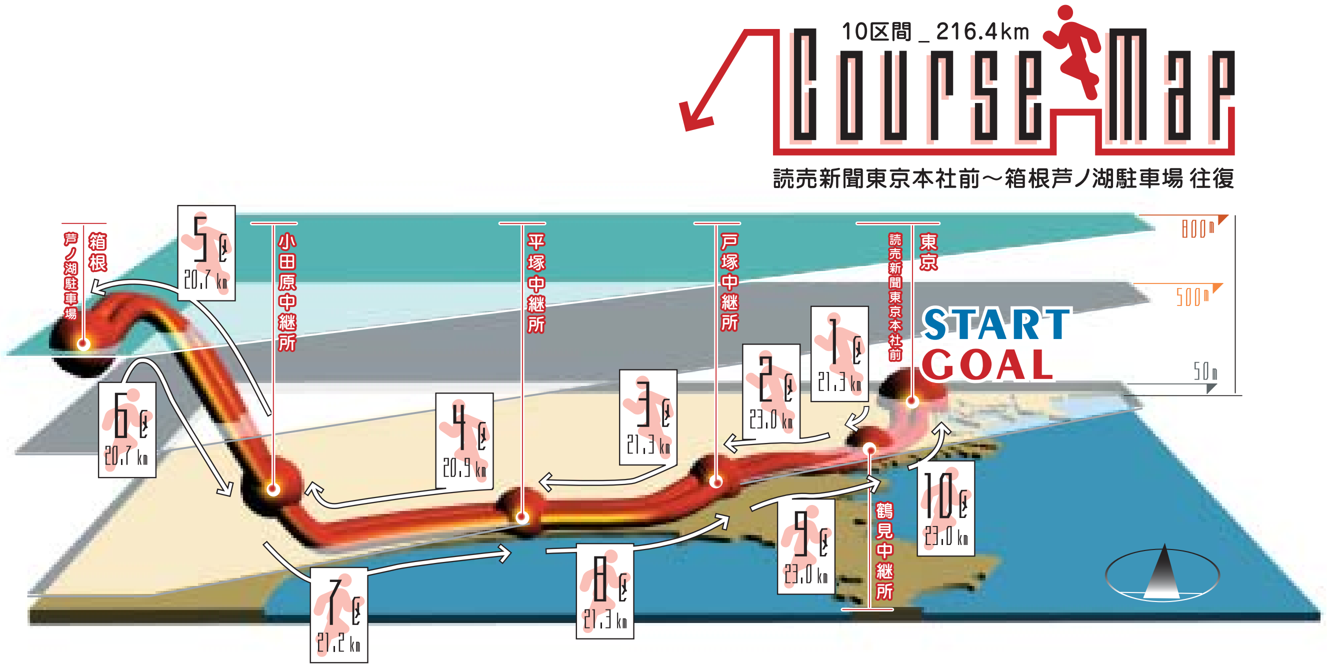
第71回大会（平成7年1月2.3日）
総合12位　11時間34分10秒

第75回大会（平成11年1月2.3日）
総合13位　11時間38分18秒

第79回大会（平成15年1月2.3日）
総合10位　11時間17分33秒







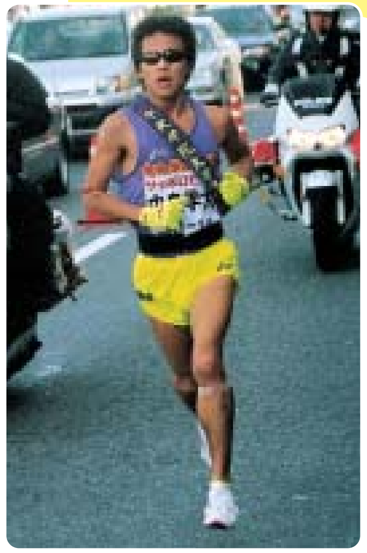
箱根駅伝

第80回東京箱根間往復大学駅伝競走

往路

往路結果概要

2日間にわたって開催される箱根駅伝の重要なスタートの1区には石田選手(3年)を起用。多少の出遅れはあったが、2区の中東選手(3年)へと襷を繋いだ。2区は「花の2区」とも呼ばれ各校のエースが集う区間。苦戦しながらも前方を走る大学との差を少し詰めて3区を走る江藤選手(2年)に襷を繋いだ。全日本大学駅伝でも好走を見せた江藤選手は、箱根駅伝でも奮闘し、例年になく各校の力のある選手が集まったこの3区で順位を2つ上げた。4区の渡邉選手(4年)も区間5位の快走を見せ、更に順位を2つ上げた。復路のメンバーに順位を上げて繋ぎたい5区の信田選手(2年)は区間6位と力強い走りで一気に順位を4つ上げた。こうして襷を芦ノ湖まで繋ぎ、往路を8位で終えた。



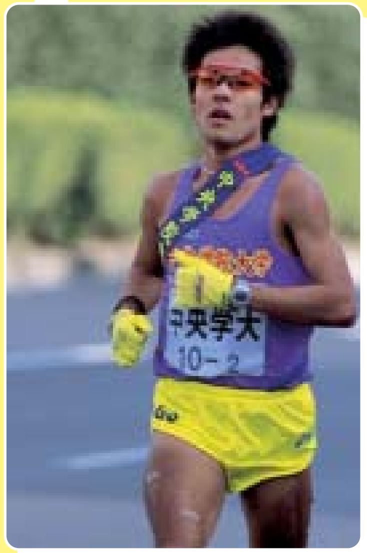
1区

石田　直之　商学部3年

1区ということでプレッシャーもあって、スタートしてから気がついたら「あ、1キロだ、5キロだ」と焦って舞い上がってしまいました。最初の大事な区間でいきなり出遅れてしまい、チームのみんなに迷惑かけてしまったというのが一番印象に残ります。

走り終えた時は「やってしまった」という感じで、放心状態になってしまい、何も考えることが出来ませんでした。シード権を失ったことで、来年は予選会からです。予選会は勝ち上がって、上に食い込めるような状況を作って行きたいです。

大学の関係者の方や色々な方が沿道で応援してくださったのがとても嬉しかったです。本当にありがとうございました。

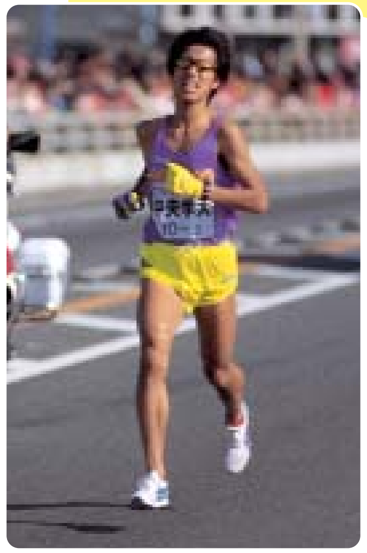


2区

中東　亨介　商学部3年

昨年は自分が1区で16位と出遅れて、2区の福山さんが10人抜きという快走をしたので、それに近い走りを目指しましたが、1人も抜くことが出来ず順位を上げられず、また個人成績も12位と満足のいく走りではありませんでした。1区の悪い流れを変え、3区の江藤に少しでもいい位置で渡すことを心がけましたが、そのままの悪い流れで渡してしまい申し訳なく思っています。

今回も大勢の方々に、言葉では言い表せないほどのサポートをしてもらいました。今年はシードが取れなかったので、日々練習に励み予選会からしっかり飛ばして結果を残したいと思います。それが恩返しだと思っていますので来年の箱根をぜひ見て欲しいと思います。

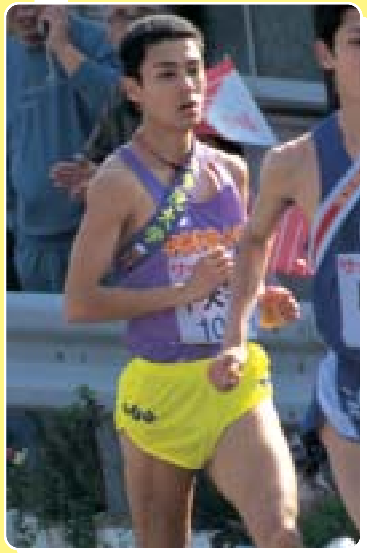


3区

江藤　裕也　商学部2年

走る前の目標は、「区間一桁の順位で走る」「チームの順位を上げる」この2つでした。結果として区間9位の走りでチーム順位も2つ上げることができ、目標が達成できたと正直なところ喜んでいました。しかし、チームが総合11位で終わった時に、自分は襷を渡した時点で自分の駅伝は終わっていたんだなと気付きました。チームでやってきたのに、最後の最後で忘れてしまい1年間何をやっていたのかなとすごく後悔しました。

今年は予選会からのスタートとなるので、予選会をトップでゴールするということだけを目標にチーム意識をしっかり持って頑張っていきたいです。応援して下さった方たちに感謝の気持ちでいっぱいです。



4区

渡邉　祐介　法学部4年

14位で襷をもらったとき、うちのチームはここで勝負するチームではないと思ったので、最初はちょっと様子をみて走っていました。全日本の時はいい走りが出来ずチームに助けてもらったため、箱根駅伝では4年生として、「なんとか今度は自分がチームを助ける番にまわりたい」という気持ちがあり、途中からはがんがん前に出ていきました。監督からは「悔いのない走りをすればいい」と言われましたのでそれを達成でき、4年間で最後の集大成としては、きっちりと役目は果たせたと思います。

「こんな僕でも出来たのだから頑張れ!」と後輩には言いたいです。サポートしてくださった方々、いろいろと4年間支えていただきありがとうございました。

5区

信田　雄一　商学部2年

3区の江藤が悪い流れを変えて、4区の渡邉さんが追い上げていい流れで来てくれたので、自分はその流れを崩さないように、復路の人たちのためにもさらによい流れになる走りをしようと心がけました。もう少し頑張って、もう1チーム神奈川大学を抜きたいとは思っていましたが昨年よりかはよい走りができました。来年の箱根は予選会からなので、そこから上がっていく厳しさを常に心に置いて、「なんとしても今年の箱根駅伝で達成できなかった総合5位以内で、来年の箱根駅伝は走るんだ」という気持ちで練習に取り組もうと思います。皆さんの応援がなければ、個人個人自分の走りもできず、11位という結果も出せなかったと思います。温かいご声援ありがとうございました。

陸上競技部
駅伝コーチ
尾上　岳史

昨年の箱根駅伝でシード権を獲得してから、休む間もなく三大駅伝大会に向けて練習に取り組んできました。出雲駅伝では厳しい環境の中で結果に繋がる戦いができるよう、「選手を試す」のが目的でした。ここで駅伝の経験のない選手がどの程度走れるかは、続く全日本、箱根の試金石になりますので試すことができ、また試した意味で収穫は有ったと思います。

全日本駅伝では箱根駅伝を視野に入れて、ある程度主力を使っていきました。ケガや調整中で、主力は若干走れない者もいましたが、主力以外の選手が頑張ってくれ初出場ながらシード権獲得という目標を上回る結果を残すことが出来ました。

体調、気象条件、またその時々のモチベーションなど、いろいろな要素で試合結果は変わってきます。ある程度のアドバイスは出来ても、土俵上では選手個々の判断と能力の勝負です。この1年間どうやってその部分を組み上げようかと試行錯誤しながらやってきました。

箱根駅伝では、チーム全員が同じ闘志を持って全力で挑みましたが、残念ながらあと少しのところでシード権を失ってしまいました。しかし三大駅伝を通して得たもの、学んだものは数多くあると思います。

三大駅伝の舞台に立てたことは、並々成らぬ選手の努力と関係者をはじめ、私たちの見えない所で支えてくれていた人達の、「人の和」がもたらした成果だと感謝しています。

陸上競技部　主務
堀　立身　商学部4年

入部当初は自分も選手でしたが、故障が多く正直チームの何の役にも立てていませんでした。

やめることは簡単ですがそれだけはしたくなかったので、チームに残って何かしらチームの役に立ちたいと思いました。選手だった時には見えなかったものも見えてきますし、色々な面で本当に貴重な経験が出来ますから、社会に出てからこの経験が必ず役立つはずだと考え、昨年主務になることを決めました。

試合の中身を充実させ結果として勝利を収めるには、「土台となる基礎をはじめ、練習の意図をしっかりと理解し意識的に行っていけるか」、「限られた時間の中で試合同様の集中力で効率よく練習に取り組めるか」、つまり練習内容が非常に重要なポイントです。自分の持てる知識の中で選手に出来る限りのアドバイスをしてきました。口うるさく言う立場ですが、選手から信頼されているという充実感がありました。この信頼関係がなければチームは成り立たないと思います。「選手だけでなく、周りの人々が支えているからこそチームは成り立つ」ということを、サポートする側になって改めて感じました。

練習を通じて築きあげてきたチームの絆は、どんなに時間がたっても距離が離れていても変わらないと思います。主務として最高の舞台に立てたことに感謝します。

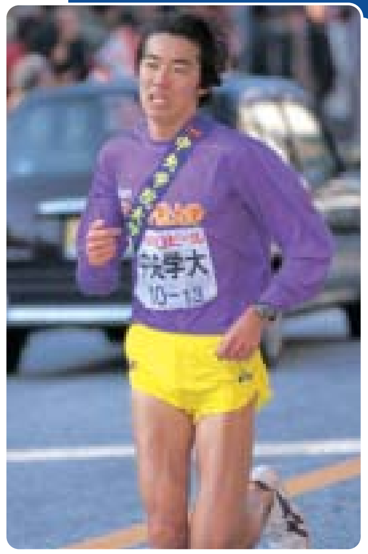
箱根
駅伝

第80回東京箱根間往復大学駅伝競走

復路

復路結果概要

6区の山下りには齊藤選手（4年）を起用。順位は10位に下がったが区間9位の走りを見せた。7区の杉本選手（2年）は2年生ながら、安定した走りでしっかりとエースの河南選手に襷をつないだ。8区の河南選手（4年）は出雲、全日本と故障に泣いたが、箱根にはなんとか間に合い、最後の箱根を走りきった。9区を任された蔭山選手（2年）は、出雲駅伝では1区を任され、区間2位とチームに貢献した走りに期待がかかったが順位を上げれず11位でアンカーにリレー。最終10区を任された主将の奥村選手（4年）は、全選手の思いが込められた襷を受け取り、最後まで諦めずに前の選手を追いかけた。区間4位の力走を見せたが2分10秒及ばず復路13位、総合11位で今年の箱根駅伝を静かに終えた。

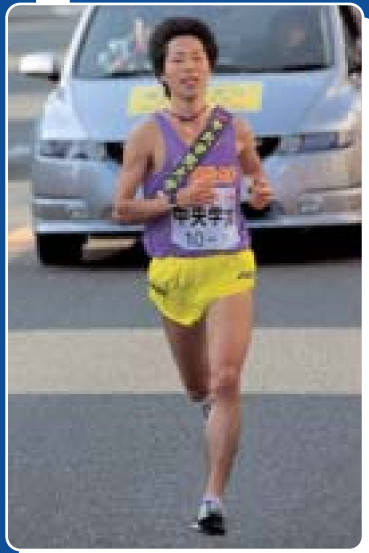


6区

齊藤　伴和　商学部4年

とにかくあれこれ考えずに、焦らずオーバーペースにならないよう心がけて走りました。自分が目標としていたタイムよりは遅くてチームの順位も落としてしまいましたが、落ち着いて最後までしっかりと自分の走りが出来たと満足しています。7区の杉本に襷を渡した後は、残りの区間はみんな力がある選手なので「後はまかせた」という気持ちでした。

後輩にはもっと意識を高く持って上を目指して練習に励み、来年はまた箱根でシードをつかみとって欲しいです。それが出来るチームだと思っています。みなさんの応援に支えられて走りきることが出来ました。最後まで応援ありがとうございました。



7区

杉本　芳規　商学部2年

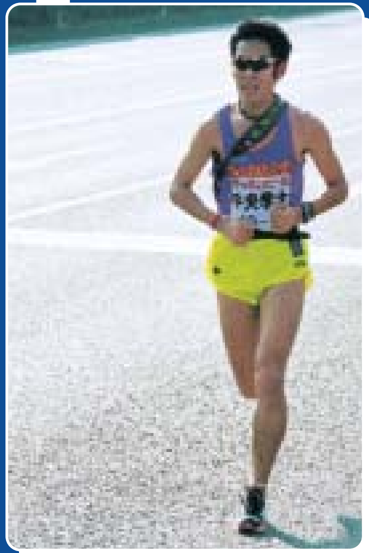
前半はそこそこいい走りができましたが、後半に入ってからペースダウンしてしまい、シード圏外にも自分が順位を落としてしまいました。チームのためを思って一生懸命に走りましたが、まだまだ力が足りなかったなと痛感しました。あと少しのところでシード権を逃してしまい、チームとしては納得のいく結果が残せませんでした。また、自分はミスをしてしまった側に入るので、来年は再びシード権を勝ち取れるよう、自分の走りもチームに貢献できたと思えるような結果を残せるよう気持ちを引き締めて頑張っていきたいです。

今回の箱根駅伝ではサポートの方たちがあっての駅伝だと改めて思いました。ありがとうございました。

8区

河南　耕二　商学部4年

8区は流れを作る重要な区間ですが、始めからリズムを作れず、思うような走りが出来なくて、その役目を果たすことができませんでした。不甲斐ない走りでチームに迷惑をかけてしまい、エースとして失格だなとゴールした時に悔しくて思わず泣いてしまいました。今回が自分にとって最後の箱根となりました。耳が痛くなるほどの大きな歓声を送ってくれた方々、裏方として一生懸命にサポートしてくれたチームのみんなにとても感謝しています。4月にはまた新たなメンバーが加わります。チーム一丸となって、まずは予選会突破を目標にして、来年はまた箱根でシードを取れるよう頑張って欲しいです。そしてこれからも連続出場してくれることを期待しています。



9区

蔭山　浩司　商学部2年

自分の設定タイム通りに走れていなかったので、途中からは何とか1秒でも早く次の奥村さんに繋げなければという気持ちで最後まで走りました。自分がゴールできてとりあえずほっとしたのと同時に、「ああ、やってしまった」という複雑な心境でした。自分のブレーキが今回のチーム順位に響いてしまい、チームの役に立てず悔やむ部分がかなりあります。今回は納得いく走りが出来なかったので、来年はしっかりと区間賞めざして、応援してくれた方に感謝の気持ちを込めて走りたいと思います。また、昨年は春先しか走れなかったので、今年は1年を通して平均的にいい感じで走っていきたいと思います。

10区

主将

奥村　雄大　商学部4年

自分の設定タイムよりはちょっと遅かったですが、区間4位とよい走りができました。11位で襷をもらった時、前とは4分以上の差がありましたが、駅伝は何が起こるか分かりません。最後まで諦めないで走りましたが、残念ながら結果は11位とあと少しのところでシード権を逃してしまいました。この悔しい気持ちを忘れず頑張れるかが、今年のチームの課題になってくると思います。僕はOBとして、今後は出来る限りのサポートをしていきたいと思っています。

陸上競技部が箱根駅伝に出場できたのは、OBや学校関係者、そして大勢の方に力を貸していただいたお陰です。本当に4年間ありがとうございました。

応援部
チアリーディングクラブ

田中　功一

商学部4年

出雲、全日本駅伝と終わると、次の大会に向けて我々も選手の皆さんと一緒に応援練習に励んできました。日を追うごとに、「あと何回しか練習出来ない」、「これが最後の練習なんだ」と校歌を歌うたびに胸が熱くなり、こみあげてくるものがありました。今回の箱根が応援部として最後の大会だったので、4年間の思いを込めて精一杯応援しました。選手が頑張って走る姿を見た瞬間に、それまでの苦労が報われ、また追いつき追い抜こうとする懸命な姿には本当に感動しました。卒業してもずっと応援していきたいと思います。

応援部
チアリーディングクラブ

小島　美由紀

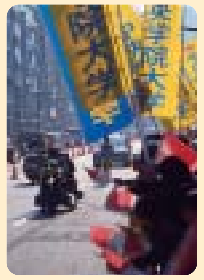
法学部3年

夏合宿ではいろいろとスムーズに決まらないこともあり大変でしたが、それでも一致団結して演技を作り上げていったことはとてもいい想い出です。

箱根駅伝でシードを取れなかったのは残念でしたが、選手の皆さんはこれ以上ない力を出したはずです。応援しているとだんだん疲れてきますが、選手はもっと辛いんだと思うと一生懸命に応援できました。来年も箱根駅伝に出れるように、まずは予選会突破を目標に頑張っていって欲しいです。私達も今回以上に迫力ある応援で選手の力になれるよう頑張ります!

吹奏楽団

篠塚　英和

法学部3年

今回の三大駅伝の応援では、今まであまり交流がなかった応援部と、色々なことを相談して一つの作品を作り上げていったので、横の繋がりが出来て良かったです。我々は具体的な練習方法や応援曲を決めるのに悩みました。応援は100%できた部分もあれば満足できなかった部分もありましたが、選手が目の前を通過すると「うちの大学の選手がきた」、と力を入れて応援できました。今回の箱根ではシード権をとれなくて悔しいですが、選手の皆さんにはこれをばねにして頑張って欲しいです。